



平成28年5月6日

各 位

会社名 日本製粉株式会社  
代表者名 代表取締役社長 小寺 春樹  
(コード番号2001 東証第1部)  
問合せ先 理事 広報部長 満生 潔  
(TEL. 03-3350-3900)

**当社連結子会社(オーケー食品工業株式会社及び東福製粉株式会社)の  
業績予想の修正について**

当社の連結子会社であるオーケー食品工業株式会社(JASDAQ・証券コード 2905)は、平成27年10月30日に公表した平成28年3月期通期業績予想を別添資料のとおり修正いたしました。

また、東福製粉株式会社(福証：証券コード 2006)は、平成27年11月6日に公表した平成28年3月期通期連結業績予想を別添資料のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

なお、これらによる当社の平成28年3月期通期連結業績予想に与える影響は軽微であります。

以 上



平成28年5月6日

各 位

上場会社名 オーケー食品工業株式会社  
代表者 代表取締役社長 大重 年勝  
(コード番号 2905)  
問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 城後 精二  
(TEL 0946-22-2000)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年10月30日に公表した平成28年3月期通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成28年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,800	220	210	180	4.86
今回修正予想(B)	9,010	330	330	290	7.83
増減額(B-A)	210	110	120	110	
増減率(%)	2.4	50.0	57.1	61.1	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	9,053	124	111	93	2.52

#### 修正の理由

売上高につきましては、主に「味付け油揚げ」を主体とした製品売上が下半期も好調に推移したことにより、予想数値を上回る見通しであります。また、利益面におきましても、売上高の増加に加え、原油安による燃料費の低下を主因とした製造原価率の低減等により、予想値を上回る見通しであるため、上方修正いたします。

(注)業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき算定しております。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によってこれらの予想数値と異なる可能性があります。

以 上



平成28年5月6日

各 位

上場会社名 東福製粉株式会社  
 代表者 代表取締役社長 池井 一海  
 (コード番号 2006)  
 問合せ先責任者 取締役執行役員総務部長 山口 雄治  
 (TEL 092-781-1661)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年11月6日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年10月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,560	14	15	12	1.20
今回修正予想(B)	1,800	20	35	35	3.50
増減額(B-A)	240	6	20	23	
増減率(%)	15.4	42.9	133.3	191.7	
(ご参考)前期実績 (平成27年9月期)	3,190	△140	△150	43	4.35

※当連結会計年度は、決算期変更の経過期間となるため、平成27年10月1日から平成28年3月31日までの6ヶ月間となります。なお、前期実績(平成27年9月期)の数値は、12ヶ月間の数値を記載しております。

#### 修正の理由

当連結会計年度は、平成27年11月6日に公表いたしました連結の業績予想に差異が生じる見込みとなりましたので、業績予想を修正いたします。

なお、当連結会計年度は、決算期変更の経過期間となるため、平成27年10月1日から平成28年3月31日までの6ヶ月決算となります。

当連結会計年度においては、海外穀物相場の値下がりにより原料価格などは値下がり傾向にあるものの、依然として低価格志向を背景とした販売競争は続いております。また、さらに消費者の「食に対する安全・安心」への関心は一層高まっており、厳しい経営環境下にありました。

このような中、当社グループは、新規取引先の開拓や微粉碎全粒粉など新製品の開発等による営業力の強化及び製造効率の向上、さらに徹底したコスト削減等により収益改善に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、予想を上回ることとなりました。

※上記の業績予想につきましては、現時点で入手される様々な情報に基づいて作成したものであり、将来の業績を確約したり保証するものではありません。

以上